

## 県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑増加 ↓減少 →横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 946	1,092	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 12	33	ヘルパンギーナ	↑ 5	3
咽頭結膜熱	↑ 32	23	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↓ 44	61
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	↑ 67	63	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 478	549	流行性角結膜炎 (はやり目)	↓ 8	12
水痘	↑ 106	90	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	→ 0	1	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	↓ 2	8	マイコプラズマ肺炎	↓ 0	3
突発性発しん	↑ 37	30	クラミジア肺炎	→ 0	0

94946  
報告が多い  
感染症

**インフルエンザ**

**感染性胃腸炎**

**水痘**

- インフルエンザは、報告数 946件(前週報告数 1,092件)と減少。  
地区別では、山鹿、人吉、菊池に多く報告がみられる。  
年齢別では、10～14歳の 226件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 478件(前週報告数 549件)と減少。  
地区別では、山鹿、有明、菊池に多く報告がみられる。  
年齢別では、1歳の 67件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 水痘は、報告数 106件(前週報告数 90件)と増加。  
地区別では、天草、宇城、菊池に多く報告がみられる。  
年齢別では、3歳の 28件を最多に、9歳以下からの報告である。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性レンサ球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミ ジア肺炎
熊本市保健所	186	4	4	25	150	32	0	1	11	0	0	9		7				
山鹿保健所	97	0	0	0	38	1	0	0	2	0	0	0	*	*				
菊池保健所	164	0	15	12	59	13	0	0	5	0	1	5						
阿蘇保健所	35	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	10	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	37	2	2	7	35	2	0	0	4	0	0	0						
水俣保健所	21	0	4	0	5	6	0	0	1	0	0	12	*	*				
人吉保健所	141	2	2	6	27	0	0	0	5	0	0	0	*	*				
有明保健所	156	1	5	11	93	12	0	0	2	0	0	5		1				
宇城保健所	54	0	0	1	30	13	0	1	5	0	0	6						
天草保健所	45	3	0	4	34	25	0	0	2	0	4	7						
計	946	12	32	67	478	106	0	2	37	0	5	44	0	8	0	0	0	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上
インフルエンザ	946	3	9	41	28	50	74	67	110	60	75	55	226	20	27	50	17	10	13	4	7
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	12	4	4	3	1																
咽頭結膜熱	32		3	8	4	2	5	1	3	2	2	1	1								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	67		2	3	5	9	10	8	6	4	3	3	7	2	5						
感染性胃腸炎	478	5	40	67	40	38	54	41	38	17	17	25	55	8	33						
水痘	106	1	4	16	15	28	13	15	12		1	1									
手足口病	0																				
伝染性紅斑	2								1				1								
突発性発しん	37	4	19	14																	
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	5			1	1	2	1														
流行性耳下腺炎	44			4	4	6	11	6	5	2	1	1	2	1	1						
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	8													1	1	1	3			2	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	0																				
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

インフルエンザ : 山鹿・菊池・人吉・有明  
咽頭結膜熱 : 菊池  
感染性胃腸炎 : 山鹿  
流行性耳下腺炎 : 水俣

水痘

【水痘】が2週続けて報告数が増加しており、6歳以下の乳幼児の年齢層からの報告がほとんどです。感染力が非常に強く、保育所などでの集団生活の場では、容易に感染し、水をもった赤い発疹が、口の中や頭皮、更には陰部まで、全身に出ます。発疹は通常2～3日でピークとなり、その後乾いて黒いかさぶたになります。すべての発疹がかさぶたになると、人にうつすことはなくなります。発疹はかゆみを伴いますので、ひっかいてかきこわさないよう爪は短くしておきましょう。合併症としては、熱性痙攣、肺炎、肝機能異常、皮膚の細菌感染症などがあり、脳炎を起こすこともあります。周囲の発生状況や症状から水痘が疑われるときは医療機関に相談し、受診する場合は、他への感染防止のため受診方法について指示をもらうようにしましょう。水痘の予防方法としては、ワクチン接種があり、ワクチンの抗体陽転率は約90%と報告されており、効果が高いです。ワクチン接種後に水痘にかかることもあります。症状が軽く済むことが多いです。このワクチン接種は任意の接種となっておりますので、かかりつけの医療機関へご相談ください。